

「談合疑い」市民団体告発

西郷の除染で業者、村職員

西郷村の除染関連工事に絡み、業者と村職員に談合があったとして、市民団体「市民連帯の会」(代表・三井環元大阪高検公安部長)と室井清男同村議は14日までに、談合の疑いで13件の

来年春以降の帰還を自指す檜葉町。会津美里町に避難する会社員男性(49)は「がれき撤去をする前に、手順や対策などを住民にきちんと説明し、同意を得るべき。東電は隠している」とが多すぎる」と批判した。

工事入札に関わった建設会社の代表ら延べ91人、官製談合の疑いで同村職員数人を福島地検に告発した。

告発状によると、2012(平成24)年12月から今年1月までに、除染業務委託などの工事13件で、業者が談合して落札者を決めた上、村職員から落札予定価格を聞き出すなどして落札し、公正な価格を書いたとされている。村職員は氏名不詳とし、特定していない。三井代表と室井村議は14日、福島市で記者会見し、

「復興予算が談合の利益になっている。国民の税金を侵奪する犯罪だ」と訴えた。同村は「告発状の内容を見ていないのでコメントできない」としている。